

グローバル・カフェ Mid-Autumn Festival「中秋」イベントを開催しました

2025年10月17日（金）、Mid-Autumn Festival「中秋」イベントを実施しました。中国文化の伝統行事である中秋節が、中国本土や本土以外においてどのように祝われているか、そして中秋節に欠かせない月餅について、農学准教授部 Kong Lingbing 先生、インターナショナルオフィス講師 Wu Yunxi 先生よりお話しいただきました。また日本のお月見の文化を象徴する公園や建築物についてインターナショナルオフィス特命准教授 植村友香子先生が紹介してくださいました。

参加者は日本人学生・留学生併せて16名、教職員8名の計24名でした。



始めに Kong 先生より、中秋節は月の満ち欠けと太陽の運行を基準にした中国旧暦8月15日（現在の9、10月頃、中秋の名月の時期にあたる）に行われる中国発祥の伝統的なお祭りであること、中国において満月は「円満・団らん」の象徴であり、秋の収穫を祝うとともに、月を眺めながら家族とともに過ごす風習がある、という説明がありました。中秋節では月の神への供え物として月餅を用意し、家族で食卓を囲んで供え物の月餅を楽しむのが習わしだそうです。



月餅の中身について Wu 先生より、香港、マカオ地域ではハスの実と塩漬けの卵黄が入っている、中国北西部ではミックスナッツがぎっしり詰まっている、中国北東部では、チーズやドライフルーツが入っている等、地域によって中身が異なることが紹介されました。続いて、中国本土以外で祝う同様の行事として、台湾では月餅とともに、バーベキューや文旦を用意することが定番と

なっていること、日本では月見団子などの餅、韓国では米粉で作った柔らかい餅の中に豆やゴマの餡が入ったカラフルな餅、ベトナムでは緑豆などが入った焼き菓子などを楽しむ風習があると話されました。



日本の風習のお月見については、植村先生が月を鑑賞する名建築の代表例として「桂離宮」と「栗林公園の聞く月亭」を紹介し、日本人の自然の美しさをいつくしみ楽しむ「花鳥風月」の精神についてご説明くださいました。

イベントの最後には月餅の試食会が行われました。写真を携帯に収める人もおり、参加者たちは違う種類の月餅を食べ比べて楽しそうに談笑していました。